

シンラバンショウの21

メス 2021年3月14日生 | 鹿毛 | 水沢・伊藤和忍厩舎 | サンバマウンテンファーム生産



一口価格：11,000円 ※地方募集馬は競走馬保険の加入はありません 募集口数：500口【競走馬出資金総額 550万円】



POINT

父はスプリンターズSを優勝した芝のスプリントチャンピオンですが、ダートでも4勝をあげており、その産駒にも芝ダートを問わない活躍が期待出来そうです。本馬は現状は小柄な馬体ですが、母も祖母もJRAで新馬勝ちをしており小柄ゆえの仕上がりの早さは武器になるかもしれません。近親にはグランプリボスがあり、母父サクラバクシンオーとスピード豊かな母系出身の本馬にとっては芝コースを持つ岩手競馬所属というのもプラスでしょう。両親から受け継いだスピード能力を武器に早期デビューからの新馬勝ちを目指します。

治郎丸敬之の馬体診断

新種牡馬レッドファルクスの産駒が各地の競馬場でデビューしています。産駒たちの馬体を見ると、レッドファルクスの産駒だとバツと見て分からない馬が多いというのが現時点での印象です。それには2つ意味があって、ひとつは芦毛の産駒が意外にも少ないこと、もうひとつは母に似ている馬体の馬が多いということです。レッドファルクス自身は、その父スウェプトオーヴァーボードの後継者らしく、小粒でもピリリと辛いというか、どちらかというと馬格の小さいタイプにもかかわらず、圧倒的なスピードとパワーを誇り、中山競馬場の急坂を1頭だけ物ともせず駆け上がっていました。そういうレッドファルクスらしさが前面に出ている産駒は少なく、良く言うと繁殖牝馬の特徴を引き出すタイプの種牡馬のようです。シンラバンショウの21もレッドファルクスらしさはほとんど感じさせず、母シンラバンショウの品の良さが表に出ていますね。素軽さがあって、気性の素直さも伝わってきます。岩手競馬に所属するのであれば、水沢競馬場の重いダートではなく、盛岡競馬場の芝コースの短距離戦を中心に活躍するのではないかと勝手な妄想は広がります。

※測尺・馬体重はHPで最新情報をご覧ください。